

## 生態系保全アクションプラン 平成 24 年度事業進捗及び平成 25 年度事業計画 (詳細事業内容)

## ■実施機関：環境省

種名	事業項目		平成 23 年度		平成 24 年度 (見込み)			平成 25 年度予定	課題・備考	
	No.	事業名称	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗			
ノヤギ・ノネコ	環 1	外来ほ乳類対策 ノネコ対策調査業務	父島	①東平外周柵設置完了。 ② ノネコ捕獲継続 ③ノヤギ排除の実施(継続)、ノヤギ及び植生モニタリング(継続)、民有地における外来植物(リュウキュウマツ、モクマオウ、アカギ)の駆除実施 ④ノヤギ排除の実施に関して、島内関係機関への説明、住民説明会の開催、チラシの配布、看板の設置などによる周知。	① 柵設置完了 ② H23 年度に父島において 37 頭を捕獲(1 月末)。 ③ ノヤギ排除 ・H23 年度、柵内で 81 頭を排除。昨年度と合わせ、柵内で 98 頭を排除。(1 月末) ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの実施。 ④島民等への事業の周知、進捗の報告の実施。	① 維持管理(継続) ② ノネコ捕獲(継続) ③ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ排除作業(銃器及びわな)の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ④ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	② ノネコ排除 センサーカメラ、フンの痕跡調査 ③ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ生息状況(東平柵内:センサーカメラ、フンの痕跡調査、行動域調査、船上カウト、定点観察、排除効率等) ・植生(外来植物(東平柵内個体数調査)、希少植物(東平周辺で個体ベース調査)、定点写真 ・侵入防止柵設置箇所における外来植物侵入状況(東平柵沿い)	①柵維持管理(継続) ②H24 年度に東平地区で 15 頭を捕獲(9 月末時点の数)。 ③ノヤギ排除 ・H24 年度、柵内で 24 頭を排除。H22 年度からの累計で柵内で 135 頭を排除。現時点で確認されている柵内のノヤギ排除完了(1 月下旬) ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの実施。 ノヤギによる食害がなくなった他は植生に大きな変化はない。侵入防止柵沿いには外来樹木数種の実生が出現した。 ④島民等への事業の周知、進捗の報告の実施。	①維持管理(継続) ②父島山域におけるノネコモニタリング及び捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送。東平生態系モニタリング及び保全方針検討会の開催(継続) ③ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ排除作業(銃器及びわな)の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ④ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	「東平ノヤギ・ノネコ排除柵設定に関する検討会」において検討
ノネコ	環 2	ノネコ対策調査業務	母島	① 継続して実施	① H22 年度に引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H23 年度は、2 頭を排除。	① ノネコのモニタリング及び捕獲(継続)	ノネコ生息状況(センサーカメラ)(継続)	①H22 年度から引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H24 年度は、1 頭を捕獲。	①南崎半島部およびその他山域でのノネコのモニタリング及び試験捕獲、捕獲したネコの一時飼養及び搬送、南崎フェンス内海鳥モニタリング(継続)	
	環 3	外来ほ乳類対策	兄島・弟島	①モニタリングを縮小する。兄島では、他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。 ②弟島では、引き続き残存個体の有無を確認するモニタリング(自動撮影機の使用および踏査)を行う。	① 兄島では、ノネコの痕跡等はなし。調査を開始して 4 年経過したが、個体等が確認されていないことから、未生息状態と考えられる。 ② 弟島では、ノネコの新しい痕跡等の確認なし。H22 年 2 月までに 3 頭捕獲し、それ以降 2 年が経過したが、新しい痕跡等が確認されていないことから、残存している可能性は極めて低い。	モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	他分野の調査時における残存個体の情報収集。	兄島・弟島両島に関して、残存個体の情報なし。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	
ノブタ	環 4	外来ほ乳類対策	弟島	①モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	ノブタの痕跡等は確認されなかった。	他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	他分野の調査時における残存個体の情報収集。	弟島でのノブタの痕跡等は確認されなかった。	モニタリングは実施せず。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	平成 21 年 11 月の科学委員会にて根絶を発表
クマネズミ	環 5	外来動物対策調査	賀島・東島、兄島	①既駆除地域でのモニタリング調査の継続 ② 生息が確認された弟島から兄島への再侵入リスクを低減する対策として、弟	① 既駆除地でのモニタリング調査(4 回終了)の結果、弟島以外ではネズミの生息は確認されず ②弟島南部での個体数管理を実施 ③東島でオオハマギキョウ、兄・弟	① 既駆除地域でのモニタリング調査の継続 ② 弟島から兄島への再侵入対策の継続 ③ オガサワラノスリなど鳥類、植物、	○駆除実施地 ・外来ネズミの生息状況(継続) ・植物、陸産貝類、昆虫、鳥類(ノスリ)等生息状況 ・植物(タコノキなど)の食害状況調査	① 既駆除地でのモニタリング調査(3 回終了)の結果、弟島に比べて、兄島での駆除後初確認があった。 ②弟島南部での部分的防除を実施	①未根絶島嶼における中長期計画策定。 ② 既駆除地域でのモニタリング調査の継続 ③根絶技術・コントロール技術確	「ネズミ類対策検討会」において検討

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
				島南部での個体数管理を実施。残存した場所における対策の検討。 ③非標的種の生息状況のモニタリングの継続。陸産貝類等、ネズミ類による被害を受けていた生物の回復状況をモニタリング。 ④駆除方法の改善策を検討するとともに駆除未実施地域(母島属島、媒島、嫁島)の事前調査の継続	島でアカガシラカラスバトの個体数増加を確認、兄島の陸産貝類も増加傾向、オガサワラノスリの繁殖つがい数は兄・弟島ともに減少 ④新たな殺鼠剤として、第2世代の導入について法的な整理を検討、母島属島での事前調査として、陸生鳥類の生息状況等を調査	陸産貝類などのモニタリングの継続 ④ 駆除手法の改善に関する検討、および弟島での再駆除、母島属島での駆除実施と、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	(年5回) (継続) ・陸産貝類生息状況(兄島/年2回、弟島/年1回) (継続) ・オガサワラノスリ繁殖状況(兄島、弟島、東島、年1回) (継続) ・アホウドリ、鳥類、植物、昆虫・海草等の生息状況(専門家ヒアリング等による)  ○駆除未実施地(主に母島列島) ・外来ネズミの生息状況(継続) ・生態系影響に関する専門家ヒアリング(海鳥類、植物、陸産貝類、昆虫類、甲殻類等) ・陸産貝類生息状況(向島、平島、姉島、妹島、姪島/1回) ・陸生鳥類生息状況(向島、妹島、姪島/年1回)	③兄島、弟島においてオガサワラノスリの繁殖率が上昇傾向にあることを把握。弟島での植物の食害再開を確認。兄島の陸産貝類では今のところ顕著な食害が生じていない事を把握。 ④第1世代による駆除時の手法改善検討を行った。駆除を実施すべき島嶼の優先順位を整理し、優先順位の高い母島属島に関して、さらに島の優先順位の整理、非標的種生息状況調査、配慮手法の検討整理を実施。第2世代の試験的利用に関する条件整理を実施。	立の検討。根絶島嶼における再侵入防止手法の検討。 ④ オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などを調査対象とした生態系モニタリングの継続 ④ 駆除手法の改善に関する検討、住民説明会の実施、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	
グリーンアノール オオヒキガエル	環6	外来生物重点防除事業 (父島アノール対策)	父島	①重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。防除の緊急性が高い地域について調査を実施し、防除区域等への検討を行う。 ②引き続き植生管理等を行うとともに、重点防除区域にアノールが集中する侵入経路等において重点的であり効果的な対策を試行する。 ③属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施し、普及啓発を図る。 ④オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、生態系影響を評価する。兄島でオオヒキガエルが発見されたことから、モニタリングを継続する。 ⑤島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物の整備、過去パンフレットの改訂を行う。また、属	①二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により、捕獲開始からH23年12月までにアノール約7,600個体を捕獲した。H23年10～11月における推定生息密度は、49個体/haであった。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は2割未満に低減することができた。 父島と母島全域でアノール等のセンサス調査を実施した。 ②重点防除地域ではアノール生息適地排除のために植生管理を行った。 ③オオヒキガエルの防除方法、体制等簡易柵によるアノール遮断技術を検討した。 ③踏査と関係者への聞き取り等の結果、アノール・オオヒキガエルの属島への侵入は確認されなかった(2011年12月現在)。 ④兄島で音声モニタリングを継続したが、オオヒキガエルの生息は確認されなかった。残存の可能性は低い。 ・重点防除地域でオオヒキガエルの試験捕獲を実施した。 ⑤パンフレット「外来動物対策は今」の改訂作業を実施中。 ・属島利用マニュアルを策定中。 ・外来種等の樹脂封入標本、レプリカを製作中。	① 重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ・重点防除区域等において、アノールの生息・繁殖しないよう、植生管理等の効果をとりとめる。 ②属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施する。 ・重点防除区域等へのアノールの移動等を把握する。 ③オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施する。 ・兄島でオオヒキガエル生息状況調査を実施する。 ④島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物や啓発資料を作成する。	○父島(二見港)(継続) ・アノール生息状況(トラップによる捕獲/通年、ルートセンサス/年2回) ・オオヒキガエル試験捕獲(手取り等/年2回)  ○属島(父島列島)(継続) ・アノール・オオヒキガエル侵入状況の確認(踏査/適宜) ・(兄島)オオヒキガエル根絶確認(音声モニタリング/適宜、踏査/10回程度)	①二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により、捕獲開始からH25年1月までにアノール約9,100個体を捕獲した。H24年10月における推定生息密度は、69個体/haであった。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は3割に低減することができた。 ・重点防除地域ではアノール生息適地排除のために植生管理等の効果をとりとめた。 ②踏査と関係者への聞き取り等の結果、アノール・オオヒキガエルの属島への侵入は確認されなかった(2013年1月現在)。 ・属島利用マニュアル案を作成し、ガイドに配布した。 ・記号放逐調査等により、行動圏や移動パターンを確かめた。 ③・重点防除地域でオオヒキガエルの試験捕獲を実施し、効果的な防除技術を検討した。 ・兄島で音声モニタリングを継続したが、オオヒキガエルの生息は確認されなかった。残存の可能性は低い。 ⑤パンフレット「外来動物対策は	② 重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ・重点防除区域等において、アノールの生息・繁殖しないよう、植生管理等の効果をとりとめる。 ②属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施する。 ・重点防除区域等へのアノールの移動等を把握する。 ③オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施する。 ・兄島でオオヒキガエル生息状況調査を実施する。 ④島民等に対する業務の普及啓発の実施。	

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
				島利用にあたってのマニュアル策定等の検討を行う。	・外来種対策関連の講演会を実施した。 ⑥父島でグリーンイグアナ 1 個体を捕獲した。			今！」「私たちができること」の増刷。 ・保全対象種（オガサワラハンミョウ）の樹脂封入標本製作。 ・外来種対策及び固有昆虫保全に関する講演会と写真展を実施した。		
グリーンアノール オオヒキガエル	環 7	外来両生爬虫類対策事業 （母島アノール対策事業）	母島	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。  ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、アカギ対策等を実施し、在来昆虫類等に適した環境に再生する。 新夕日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	①・新夕日ヶ丘ではアノールの集中捕獲とモニタリングを継続し、低密度状態を維持した。オオヒキガエル侵入を阻止した。 ・南崎草原部ではアノールの駆除とモニタリングを実施した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ②新夕日ヶ丘では昆虫類の増加が確認された。地元住民と連携してオガサワラシジミのモニタリングを実施し、植栽した外来樹での発生するのが確認された。 ・南崎草原部では、オガサワラセリが少数ながら生息しているのが確認された。スジヒメカタゾウムシの安定的な生息が確認された。 ③・石門でアノールの駆除とモニタリングを実施した。 ・遮断柵により蓮池でのオオヒキガエル繁殖を阻止した。踏査では周辺で成体が捕獲された。	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施する。新夕日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	○新夕日ヶ丘自然再生区（継続） ・アノール・オガサワラトカゲ生息状況（トラップによる捕獲／通年、エリアセンサス／年 2 回） ・オオヒキガエル根絶確認（踏査・トラップ／通年） ・無脊椎動物（スジヒメカタゾウムシ等）生息・回復状況 ○南崎自然再生区（継続） ・アノール・オガサワラトカゲ・オオヒキガエル生息状況（捕獲・ルートセンサス／年 1 回） ・無脊椎動物（オガサワラセリ、ヒメカタゾウムシ等）生息・回復状況 ○その他地域（継続） ・（石門）アノール生息状況（トラップによる捕獲／通年） ・（蓮池周辺）オオヒキガエル生息状況（ルートセンサス等／適宜） ・無脊椎動物（オガサワラシジミ、等）生息・回復状況 ・固有トンボ、オガサワラシジミ回復事業に係る生息状況	①・新夕日ヶ丘ではアノールの集中捕獲とモニタリングを継続し、低密度状態を維持した。オオヒキガエルの侵入を阻止した。 ・南崎草原部ではアノールの捕獲とモニタリングを実施した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ②・新夕日ヶ丘では、昆虫類が増加傾向にあることを確認した。地元住民と連携してオガサワラシジミのモニタリングを実施し、植栽した外来樹での羽化を確認した。 ③・石門でアノールの捕獲とモニタリングを実施した。 ・蓮池では遮断柵によりオオヒキガエルの繁殖を阻止した。周辺では、踏査の際に成体が発見された。	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施する。新夕日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	「平成 22 年度より新夕日 WG を設置」WG で検討。
ウシガエル	環 8	外来両生爬虫類対策事業	弟島	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	①音声モニタリングを継続。ウシガエルの生息は認められなかった。残存する可能性は極めて低い。 ②トンボ類の人工繁殖池を維持管理した。人工池で固有トンボ類が安定的に繁殖しているのが確認された。	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	・人工トンボ池における固有トンボ類生息状況 ・根絶モニタリング（音声モニタリング／7～9 月）（継続）	①音声モニタリングを継続したが、ウシガエルの生息は認められなかった。残存する可能性は極めて低い。 ②トンボ類の人工繁殖池を維持管理した。人工池で固有トンボ類が安定的に繁殖しているのが確認された。	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	平成 21 年 11 月の科学委員会にて根絶を発表
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	環 9	プラナリア拡散防止対策業務 陸産貝類域外保全業務 外来生物重点防除業務	父島	①重要地域のプラナリアの分布調査を実施 ②域外保全技術を確立するために野外飼育手法の検討（プラナリア類の排除、ネズミ類侵入防止柵の設置、陸産	○父島において恒温機による室内飼育を開始。追加捕獲を実施し、H24 年 1 月現在カタマイマイ 12 個体、キノボリカタマイマイ 2 個体を飼育中。キノボリカタマイマイは 4 年ぶりに父島での生息を確認。	①重要地域のプラナリア類及び陸産貝類の生息調査 ②域外保全技術の検討（野外飼育施設の改良、技術確立の検討。 ③生息地保全手法の検討（プラナリア侵入防止柵の設計） ④再導入区域での保全策、管理手法	○父島の 5 地域 56 地点においてプラナリア類の生息状況	①重要地域の 1 地域において、ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入が確認された。カタマイマイの唯一の生存地域での確認がなかったほか、固有陸産貝類の密度の低下や激減した種が確認された。 ②陸産貝類の野外飼育施設改良を	①重要地域のプラナリア類及び陸産貝類の生息調査 ②域外保全技術の検討（野外飼育施設の改良、技術確立の検討。 ③生息地保全手法の検討（プラナリア侵入防止柵の設計及び設置） ④再導入区域での保全策、管理手	「プラナリア対策・陸産貝類検討会」において検討

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
固有陸産 貝類				貝類の再確認実験等)と室内飼育の継続による技術確立。 ③再導入区域での保全策、管理手法(プラナリア類の低密度化実験、プラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ④母島の登山口においてプラナリア類除去装置を設置。		(プラナリア類の低密度化実験、プラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理(父島：高山・南崎地域、母島：乳房山、南崎)。 ⑥普及啓発(プラナリア類と固有陸産貝類に関するパンフレット作成)		行い、実験を継続中。 ③プラナリアを忌避及び殺虫する天然成分由来の薬剤を用いた侵入防止柵の設計、実験開始。 ④通電テープ及び殺虫剤を用いたエリア排除手法の実験を実施。 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理の継続。 ⑥パンフレット「小笠原に持ち込まれた生きものたち・プラナリア類」作成・配布予定。	法(プラナリア類の低密度化実験、プラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ⑤プラナリア類除去装置の維持管理(父島：高山・南崎地域、母島：乳房山、南崎)。 ⑥普及啓発	
						①父島における域外保全技術の確立(室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握) ②室内飼育マニュアル作成 ③母島における域外保全のための基礎情報の収集。	○母島での陸産貝類の生息状況調査	①父島において恒温機による室内飼育を継続。危機的状況にある種・個体群の捕獲及び飼育開始。H25年2月現在4種5個体群80個体を飼育中(カママイ22、キノリカママイ23、チジマカママイ27、(新規)アカママイ8)。繁殖を試み、カママイ及びキノリカママイで孵化、チジマカママイで産卵。野外施設内で網室を用いた飼育の試行を開始。 ②飼育体制検討のため、飼育トレーニングを実施。飼育マニュアルを更新予定。 ③母島の23地点において陸産貝類の生息状況を把握。同時にプラナリアの生息状況も把握。	①父島における域外保全技術の確立(室内飼育と繁殖技術の確立、野外飼育手法の検討、飼育個体の遺伝子変動把握) ②飼育マニュアル作成(室内飼育マニュアル改訂、屋外飼育マニュアル作成) ③母島における域外保全のための基礎情報の収集。 ④母島島内の域外保全手法の課題整理(ニューギニアガリクス等の侵入に備えた手法検討)	
アカギ	環 10	アカギ対策検討調査	母島、弟島	①母島北部私有地における駆除試験用地の確保 ②母島北部地域における総合的アカギ駆除試験の実施 ③希少動植物再生のための駆除試験実施(母島新夕日ヶ丘におけるWG活動における事業推進を図る) ④既往試験地のモニタリング ⑤母島北部地域におけるイエシロアリ対策の対応等(イエシロアリの生息域の把握町の実施ほか) ⑥普及啓発 アカギ材を用いた木工教室やオガクズ粘土のWS開催、英語版パンフレットの作成	○母島北部私有地における駆除試験を実施(衣館地区) ○母島新夕日ヶ丘再生区内における外来樹木の枯殺処理 ○アカギ材を用いた箸等の木工教室の開催(新宿御苑、母島)、アカギ粘土教室の開催(母島小中学校、母島明老会) ○アカギ駆除に関する英語版パンフレットの作成	○母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 ○既往試験地の再処理とモニタリング ○普及啓発の実施	○既往試験地のアカギ再生状況調査 ○母島北部イエシロアリの分布調査	○母島北部私有地における駆除試験を実施(衣館地区) ○母島既往試験地におけるモニタリング調査の実施 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における外来樹木の枯殺処理 ○母島におけるイエシロアリの分布に関する調査 ○アカギ材を用いた木工教室等の開催による普及啓発	○母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 ○既往試験地の再処理とモニタリング ○普及啓発の実施	・私有地については、土地登記者が高齢化しており、戦前居住していた方などは連絡の追跡が難しく、こうした一部の土地で駆除が実施できない状況となっている。 未駆除地が種子の供給源となって駆除後のエリアへの侵入が懸念される。

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
モクマオウ（リュウキュウマツを含む）	環 11	外来植物対策調査業務	兄島、弟島、妹島、姪島	①兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび既往試験地(16.5ha)における再生個体・侵入個体の駆除処理 ②弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、弟島民有地におけるモクマオウ等の駆除など全島的な監視・駆除の実施 ③母島属島(妹・姪島)民有地における侵略的外来種の駆除試験の実施 ④父島東平のノヤギ防止柵内民有地での外来植物駆除の実施 ⑤枯殺効果の高い駆除方法（除草剤による樹幹注入処理）の確立試験	○既往試験地（兄島・弟島）における追加枯殺処理の実施 ○妹島（リュウキュウマツ、ギンネム）、姪島（モクマオウ）における外来樹木の駆除試験の着手 ○父島東平柵内の外来植物の追加駆除の実施 ○除草剤（ラウンドアップ以外）による枯殺試験の実施と経過観察による枯殺効果の確認調査の実施	○兄島・弟島における駆除及び監視の実施 ○弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手（ガジュマル成木）。 ○妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所（リュウキュウマツ、ギンネム）のモニタリング ○姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所（モクマオウ）のモニタリング ○除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	○既往試験地調査（兄島、弟島） ・生態系への影響 ・稚樹のモニタリング ・陸産貝類生息状況 ・昆虫調査生息状況	○既往試験地（兄島）におけるモニタリングと追加枯殺処理の実施 ○既往試験地（弟島）におけるアカギ・ギンネム等の根絶に向けた駆除処理 ○弟島におけるノヤシ保全のためのカンショオサゾウムシ防除対策の検討 ○妹島（リュウキュウマツ、ギンネム）、姪島（モクマオウ）における外来樹木の駆除試験の継続 ○父島東平柵内の外来植物の追加駆除の実施 ○除草剤（ラウンドアップ以外）による枯殺試験の実施と経過観察による枯殺効果の確認調査の実施	○兄島・弟島における駆除及び監視の実施 ○弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手（ガジュマル成木）。 ○妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所（リュウキュウマツ、ギンネム）のモニタリング ○姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所（モクマオウ）のモニタリング ○除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	
アカガシラカラスバト	環 12	アカガシラカラスバト保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島	①目撃情報の収集・管理 ②生息状況調査 ③標識装着 ④環境条件の地理的情報整理及び繁殖環境条件の解析	① 非繁殖期（4～10月）に延べ316羽の目撃情報を収集整理した。 ② 繁殖期の目撃情報収集、父島列島における繁殖状況等調査を実施中。 ③ 父島において3羽に足環装着（24.1月末）。 ④ 過去の出現データ、環境要素等地理的情報を整備し、父島における好適繁殖地の解析を実施中。	① 目撃情報の収集・管理 ② 生息状況調査 ③ 標識装着 ④ 父島における解析抽出された好適繁殖地の調査及び解析	・アカガシラカラスバトの生息状況、繁殖状況	① 父島列島及び母島列島における目撃情報は前年に比べ増え、特に若鳥（未標識・不明個体）の出現が増加した。 ② 島間移動が多数確認された。繁殖域が乾性低木林内に広がった。 ③ 父島・母島・北硫黄島で合計39羽装着した。（H24.9まで） ④ GIS業務の取りまとめ状況が今年度末のため、次年度報告。	① 目撃情報の収集・管理 ② 生息状況調査 ③ 標識装着 ④ 環境条件の地理的情報整理及び繁殖環境条件の解析	「アカガシラカラスバト保護増殖検討会」で検討。
オガサワラオオコウモリ	環 13	オガサワラオオコウモリ生息状況等調査事業	父島	①生息数調査 ②冬季ねぐら域の環境調査 ③農地等利用域の環境要素及び作物被害状況の把握	① 農業被害実態調査を実施中。 ② 農地情報等地理的情報を整備し、事故等危険地域の解析を実施中。	① コウモリ事故防止のための普及啓発 ② 繁殖期を中心としたねぐら周辺域の巡視 等	・オガサワラオオコウモリの生息数 ・冬季ねぐら域の環境	・現地における連絡体制と共に状況把握に努めている。	① 関係機関と連携し、現地における問題の抽出と連絡体制の確立をしつつ状況把握に努める。	実質的な事業展開に至っていない。
希少昆虫類	環 14	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する調査等業務	父島属島、母島属島	①昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査を継続する。 ②オガサワラハンミョウの生息域外保全を実施し、死亡個体の遺伝子解析を試みる。 ③弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の試験駆除を継続す	① 昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査、密漁防止目的の巡視を実施。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を3カ所に分散して実施中。死亡個体の遺伝子解析を実施した。 ③ 兄島ルート上でオガサワラハン	① 昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査を継続する。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続し、野生復帰の必要性及び影響評価のための情報収集・検討を行う。 ③ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続する。	・オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況及び生息環境（継続） ・シュロガヤツリ駆除後の固有トンボ類の回復状況等検証（継続）	① 昆虫5種の生息状況調査、生息環境調査を継続。特にオガサワラハンミョウ、トンボ類については未調査地を含め広範囲に調査を実施。シジミについては外来樹対策地において食樹生育状況、利用状況について調	① 昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査を継続。 ② オガサワラハンミョウの生息域を保全するための落葉除去等の対策を実施。 ③ オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続 ④ 弟島のシュロガヤツリ対策	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」及び同専門家打合せにおいて検討。

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
				る。 ④必要な種について専門家打合せを開催（4回程度開催予定）。連絡会議の開催（1回程度開催）。	ミヨウの巣の踏圧が確認され防止柵を設置した。 ④ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を実施した。 ⑤ 父島及び母島で住民説明会を1回開催。専門家打合せを2回、連絡会議を1回開催した。	④ 住民説明会、専門家打合せ、連絡会議を開催する。		査。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続 ③ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を継続。 ④ 地元小学校を対象にした説明会、専門家打合せ、連絡会議を開催。	について、根からの除去を試験的に実施 ⑤ 専門家打合せ、連絡会議の開催	
希少植物	環 15	小笠原希少野生植物の生育状況調査等 等域内保全事業 小笠原希少野生植物域外保全事業	父島、兄島、母島、妹島、域外保全施設	①生育地における生育状況等のモニタリング ②ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等	① 生育地における生育状況等のモニタリング、生活史解明のための調査等を実施。 ② ノヤギ、ネズミ防止柵の維持管理を実施。 ③ 域外保全施設において、系統保存、増殖技術の試験等を実施中。 ④ 5種について植栽実施計画を検討した。 ⑤ 生育地の地理的情報を整備した。	① 生育地における生育状況等モニタリング ② ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 ④ 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施 ⑤ 生育地の土壌等環境条件の調査及び生育適地の解析 ⑥ 植栽実施計画未検討種の検討	・希少植物12種の生育状況（過去の植栽株を含む） ・ノヤギ、ネズミ類による食害防止施設の状況	① 生育地における生育状況等のモニタリング、生活史解明のための調査等を実施。 ② ノヤギ、ネズミ防止柵の設置及び維持管理を実施。 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等を実施 ④ 植栽計画に基づき自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施。 ⑤ 土壌等生育基盤の地理的情報を整備。 ⑥ 4種について新規植栽計画、1種について改訂植栽計画を検討。	① 生息地における生育状況等のモニタリング ② ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 ④ 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施	「小笠原希少植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会」において「植栽実施計画」について検討。

※関東地方環境事務所にて実施

■実施機関：林野庁

事業項目		平成 23 年度		平成 24 年度 (見込み)		平成 25 年度予定	課題・備考			
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
外来植物 (アカギ、モクマオウ等)	林 1	中・長期の外来植物駆除計画策定	小笠原諸島	○専門家からなる検討委員会を設置し22年度に作成した外来植物分布図等をベースに、島毎、地域毎、樹種毎等に優先順位を検討し、中長期的な駆除計画を作成。	計画策定にあたっては、専門家がらなる検討委員会を設置し、平成24年度以降の中・長期計画を策定した。	—	—	—		—
アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等	林 2	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	父島、兄島、弟島、母島、向島等	○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部、兄島、母島(石門及び西台)、弟島で実施。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を兄島、弟島、母島(石門、西台、南崎)、西島、東島で実施。 ○ 24年度以降の駆除予定地である兄島、弟島、向島、西島、東島で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施。	○伐倒駆除を、父島東部(約6ha)でアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウを約172本実施。薬剤注入による駆除を、兄島(約14ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネムを約24百本、弟島(約11ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ等を約24百本、母島石門(約5ha)でアカギ、パパイア等を約24百本、西台(約18ha)でアカギ等を約8百本駆除した。 また、稚幼樹の抜き取り等について、兄島でランタナ、ホナガソウ等を、弟島、東島、西島父島東部でリュウキュウマツ、モクマオウを、母島石門及び西台でアカギ及びパパイアを、母島南崎でギンネム等を実施した。 ○ 24年度以降の駆除予定地である兄島(約8ha)、弟島(約8ha)、向島(約9ha)、西島(約3ha)、東島(約14ha)で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施した。	[林1]の中・長期計画に基づき、 ○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約8ha)、弟島(約8ha)、兄島(約24ha)、西島(約3ha)、東島(約14ha)、母島(石門約1ha)、向島(約2ha)で予定。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて予定。 ○ 25年度以降の駆除予定木調査を父島東部(約37ha)、弟島(約20ha)、兄島(約11ha)、東島(約3ha)、母島(約18ha)で予定 ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で予定。	○ 外来植物の駆除に当たっては、順応的な管理のための事前モニタリング及び事後モニタリングを実施。 モニタリングの内容 ① 鳥類(ラインセンサス、ポイントセンサス等) ② 昆虫類(直接観察、トラップ等) ③ 陸産貝類(コドラート等) ④ 植生(プロット等) ⑤ 陸水動物(コドラート等) ⑥ 水質・土壌成分(薬剤の残留状況) ⑦ シロアリ(ラインセンサス等：父島及び母島) ※「小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業」(「林11」)によるモニタリング結果も活用	[林1]の中・長期計画に基づき、 ○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約8ha)、弟島(約8ha)、兄島(約24ha)、西島(約3ha)、東島(約14ha)、母島(石門約1ha)、向島(約2ha)で実施(計約72ha)。また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて実施。 ○ 25年度以降の駆除予定木調査を父島東部(約37ha)、弟島(約20ha)、兄島(約11ha)、東島(約3ha)、母島(約18ha)で実施(計89ha) ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施。	○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ、ギンネム等の駆除を、父島東部(約8ha)、弟島(約27ha)、兄島(約43ha)、西島(約4ha)、東島(約4ha)、母島(塚が岳外約20ha)、向島(約2ha)で実施予定(計約108ha)。なお、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)において併せて実施予定。 ○ 26年度以降の駆除予定木調査を弟島(約32ha)、孫島(約5ha)、兄島(約20ha)、西島(約2ha)で実施予定(計51ha) ○ 事前・事後モニタリング調査を上述の箇所等で実施予定。	「保全管理委員会」で事業計画等を承認。「固有生態系修復事業検討委員会」で具体的駆除の進め方等を検討。
	林 3	外来植物駆除事業影響調査-シロアリ対策-	父島・母島	○外来植物駆除事業に伴うシロアリ対策の指針を検討するため、国有林内のシロアリの生息密度等の調査を実施する予定。	応札なしにつき中止	外来植物駆除事業に伴うシロアリ対策の指針を検討するため、国有林内のシロアリの生息密度等の調査を実施する予定。	—	応札なしにつき中止とし、「林13」外来植物駆除残置木有効活用調査に含めて調査。		
その他外来植物、普及啓発等	林 4	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	○現地の状況を確認し、アカギの抜き取り等を実施。	○母島桑の木山において、外来植物(アカギ等)の抜き取り等を実施した。(実施日 23.11.10 参加者内地18人、現地4人参加)	○母島桑の木山において、内地及び現地ボランティアの協力を得て、外来植物(アカギ等)の抜き取り等を予定。		・母島桑の木山において、外来植物(アカギ等)の抜き取り等を実施。(実施日 24.11.8 参加者内地ボランティア24人、現地ボランティア4人及び現地スタッフ等10人 合計38人により実施)		○24年度に引き続き実施予定

種名	事業項目		平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考	
	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目			事業進捗
林 5		外来植物駆除作業体験への協力等	南島、父島等	○小笠原中学校の駆除体験活動等に協力した。	○小笠原中学校 ・南島において外来植物（ムラサキノキビ等）の抜取り作業を実施した。（実施日 23.10.18 外 生徒 11 人・教員 4 人参加） ・父島東平サンクチュアリー内で、外来植物（アカギ等）の駆除作業を実施した。（実施日 23.10.25 生徒 22 人・教員 8 人参加） ○小笠原高校 ・兄島で外来植物（ランタナ等）の駆除作業を実施した。（実施日 23.11.19 生徒 20 人・教員 4 人参加） ○父島の国有林内で、外来植物（アカギ、モクマオウ等）の駆除作業を実施した。（実施日 3 月 8 日～11 日実施予定）	○23 年度に引き続き実施予定		○小笠原中学校 ・父島東平サンクチュアリー内で、外来植物（アカギ等）の駆除作業を実施（実施日 24.10.18 生徒 17 人・教員 4 人参加） ○小笠原高校 ・兄島で外来植物（センダングサ等）の駆除作業を実施（実施日 24.10.27 生徒 9 人・教員 4 人参加） ○父島の国有林内で、外来植物（モクマオウ等）の駆除作業を実施（実施日 25.2.20 生徒 8 人・教員 3 人参加）	○24 年度に引き続き実施予定	
林 6		地元 NPO と連携した外来植物駆除	父島等	○平成 23 年 6 月に特定非営利活動法人小笠原自然文化研究所と東島の約 26ha について、協定を締結した。 ○協定を締結した 4 つの地元 NPO 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施。	○村民の森（NPO 法人小笠原野生生物研究所） ・会員によるムニンノボタン植栽地の下刈り作業を実施した。 ・会員及び島民を対象に植物観察会を実施した。 ○ハトの森林（小笠原自然観察指導員連絡会） ・区域内の食性状況事前調査を実施した。 ○西島の固有森林生態系の修復と保全の森（小笠原クラブ） ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリングを実施した。 ○東島森林性海鳥の地（NPO 小笠原自然文化研究所） ・東島全体の海鳥生息地の現況把握、外来種駆除の実施方法を検討した。 ・セグロミズナギドリ営巣地の調査設計を行った。 ・森林内営巣センサス調査区域ノ設置と営巣状況を記録した。	○各事業とも、23 年度に引き続き実施予定。	○西島：トンボ池のモニタリング ・トンボ池内に生息するヤゴ等を調査・観察しトンボ類の個体識別をモニタリング ○東島：海鳥繁殖環境モニタリング ・調査区内の営巣巣穴について、ポアスコープでの観察、捕獲による直接観察、自動撮影による写真判定による海鳥種別等を調査確認モニタリング	○村民の森（NPO 法人小笠原野生生物研究会） ・会員によるシマホルトノキ植栽 ・会員によるモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム外来種駆除。林内道路外来種刈り払い ○ハトの森林（小笠原自然観察指導員連絡会） ・現地区域の確認及び植生状況事前調査 ○西島の固有森林生態系の修復と保全の森（小笠原クラブ） ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリング ・森林生態系保全活動を題材とした環境教育プログラムを実施 ○東島森林性海鳥の地（NPO 小笠原自然文化研究所） ・会員による森林内営巣センサス調査区内の営巣状況記録、海鳥繁殖環境モニタリングを実施	○各事業とも、24 年度に引き続き実施予定。	「保全管理委員会」で活動状況等を検討
林 7		ノネコ	父島	○ノネコの緊急捕獲を実施。	○小笠原ネコに関する連絡会議と連携し実施した。 （父島山部での捕獲数 33 匹（内地への搬出数 35 匹（2 匹は出産増））	○引き続き連絡会議と連携し実施予定。		○小笠原ネコに関する連絡会議と連携し実施。（父島、母島での捕獲数 64 頭（飼猫捕獲含む）、うち東京動物病院搬送 56 頭、差の 8 頭は、飼い主へ返却）	○引き続き連絡会議と連携し実施予定。	



事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
固有種等	林 8	希少野生動植物種の保護管理等	父島・母島	○希少野生動植物種の保護・保全を実施した。	○自然保護管理員（委託）により、父島、母島の国有林全域で巡視を実施し、希少動植物の保護・保全を図った。 鳥類、植物、昆虫類、ほ乳類等の個体について観察、記録を実施した。	○希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。 ○過去の巡視記録等について、データベース化を実施予定。	○巡視による生息状況確認 ① 鳥類 メグロ：ラインセンサス ② アカガシラカラスバト等 3 種：生息状況 ③ 植物 ムニンツツジ等 12 種：開花状況、枯損・折損等 ④ 昆虫 オガサワラシジミ等 5 種：生息状況 ⑤ ほ乳類 オガサワラオオコウモリ：生息状況	①メグロのライセンス調査を実施して生息状況を確認。 ②アカガシラカラスバト等の生息状況を調査。（巡視時に毎回のよう確認） ③ムニンツツジ等 1 2 種の生育状況等を確認。（一部に生育不良のものが見られたが、ムニンツツジ 8 株を確認） ④昆虫類の生息状況の確認を実施。（確認は少数） ⑤オガサワラオオコウモリの生息状況の確認を実施。（確認数は少数） ○過去の巡視記録等について、データベース化中	○引き続き、希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。	「保全管理委員会」で検討
	林 9	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島 列島、父島	○アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査を実施。  ○アカガシラカラスバトの生息環境等の調査を実施。	○アカガシラカラスバト：母島石門において、センサーカメラ（20 台）を設置し、出現状況を確認した。 ○オガサワラカワラヒワ：母島属島（向島、姉島、妹島、姪島）において、個体識別のための足輪装着を実施し、47 羽に装着した。  ○アカガシラカラスバトサンクチュアリの立体的林分構造を解析、バトの営巣地や繁殖地となり得る地域の推定等を実施した。また、PR 用ビデオを作製した。	○アカガシラカラスバトを主体にオガサワラカワラヒワについても、引き続き実施予定。	① アカガシラカラスバト：センサーカメラによる出現状況（母島） ② アカガシラカラスバト：生息環境（父島東平） ③ オガサワラカワラヒワ：生息状況（足輪装着、生息調査：平島を除く母島列島）	①アカガシラカラスバトの出現状況を観察。（確認できたのは、既知の個体） ②父島でアカガシラカラスバト 3 羽に脚環を装着。 ③母島列島でオガサワラカワラヒワに脚環の装着及び生息状況を調査。（若鳥がほとんど）	（検討中） ①アカガシラカラスバトについては、標識調査を主にし、目撃情報はヒヤリングで実施。鳴き声調査のためのテープレコーダの設置を検討。 ②オガサワラカワラヒワの標識調査の脚環をプラスチック製から金属製に変えて調査を実施する。	希少野生動植物種保護管理対策調査委員会で検討
	林 10	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリの整備	父島	○アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施。	○アカガシラカラスバトサンクチュアリ内の生態系維持作業（木道整備）を実施した。 ○生態系修復のための、外来植物（リュウキュウマツ）の駆除を実施した。 ○プラナリア対策として、入口に、酢スプレーを設置した。	○引き続き実施予定。		○サンクチュアリー内の生態系維持作業（木道整備等）を実施。 ○プラナリア対策として、入口に、酢スプレーを設置。	○24 年度に引き続き実施予定。 なお、プラナリアの他エリアへの移動防止対策として、出口にも酢スプレーの設置を検討。	「保全管理委員会」で検討

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
その他	林11	小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業	兄島等	○小笠原諸島の乾性低木林を対象として、侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した戦略的な外来種対策を含む新たな森林生態系保全管理技術のあり方を検証するため、平成 20 年度から兄島でのモニタリング調査等を実施。	○兄島中央部に調査区、父島を対象区(100m×100m)をそれぞれ設置し、外来植物駆除後の植生等のモニタリングを実施した。	○引き続き実施予定。	平成 23 年度と同じ調査区において、 ○広域調査区において、植生調査、植物相調査、動物調査(鳥類、昆虫類、陸産貝類、陸棲プラナリア)を実施。 ○詳細調査区(広域調査区内に設置)において、植生調査、植物個体群調査(ウラジロコムラサキ、コヘラナレン、マツバシバ等)、動物調査(オガサワラハンミョウ、陸産貝類)を実施。	平成 20 年度からの検討結果を踏まえ、今年度中に、「森林生態系保全管理手法ガイドライン・兄島モデル」をとりまとめ予定。	○平成 24 年度で事業終了	「種間相互作用ワーキンググループ」において検討
	林12	小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業	調整中						「森林生態系保全管理手法・兄島モデル」を踏まえ、兄島台地上の乾性低木林以外の重要な森林生態系を対象に、種間相互作用に着目した森林生態系保全管理手法の開発を実施。	新たに「種間相互作用ワーキンググループ」の後継となるワーキンググループ又は検討会を設置し検討(P)
その他外来植物、普及啓発等	林13	外来植物駆除残置木有効活用調査	父島及び母島			林内に残置している駆除木の有効活用を図ることにより、人家等から 500m 程度以内をも含めた外来種の駆除促進を可能とし、もって侵略的外来種駆除の継続的実施とシロアリ被害の未然防止に寄与することを目的に、駆除残置木の搬出方法の確立と搬出材の有効活用方策の創出等を委託調査により実施。		取りまとめ予定。	(検討中) 残置駆除木の用途の1つと考えられる木炭(黒炭・白炭)について、その利用可能性に視点を当て委託調査を実施予定。	
	林14	新たな外来種等の予防対策調査	(父島及び)母島			小笠原諸島の価値保全に向け、未知の外来種の侵入・拡散を未然に防止するため、既存の予防措置の検証と問題点を抽出し、対応方策を検討するとともに、防除施設等のあり方を委託調査により検討。		取りまとめ予定。	(検討中) 24 年度調査結果を踏まえて、外来種予防対策施設整備に係る実施設計及び施設整備を実施予定。	
	林15	森林生態系の保全と利用に関する調査	父島及び母島			世界自然遺産登録以降、観光客等が増加し、固有の森林生態系への影響が懸念されることから、アカガシラカラスバトサンクチュアリ(SA)の保全方法及びそれ以外の新たな観察フィールドの設置等を委託調査により検討。		取りまとめ予定。	(検討中) 24 年度調査結果をも踏まえ、観察フィールドの整備・管理等に順次取り組む予定。	

※林 11 及び 12 以外は、関東森林管理局にて実施

■実施機関：東京都

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度（見込み）			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
ノヤギ	都 1	父島列島植生回復事業	父島 兄島 弟島	①父島の排除作業を継続  ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続  ③兄島のノヤギ根絶に伴うノヤギ分断柵、植物保護柵の撤去  ④弟島のノヤギ残存個体の確認や植生についてモニタリング調査を継続	①父島のノヤギ排除頭数（環境省、東京都、小笠原村） 銃器 452 頭 追い込み 172 頭 わな 70 頭 合計 694 頭 平成 22 年度の事業着手から合計 1079 頭を排除。  ②大きな変化は認められない。捕獲圧が高い一部地域では、草本類に変化が始める。  ③兄島に設置した工作物は全て撤去完了し、原状復旧した。  ④弟島のノヤギ生息は確認されず、根絶を達成した。植生調査ではモクマオウの増加が見られた。今後の兄島・弟島モニタリングは 3～5 年毎に実施。	①父島のノヤギ排除作業を継続実施。  ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施  ③兄島のノヤギ根絶に伴うノヤギ分断柵、植物保護柵の撤去  ④弟島のノヤギ生息は確認されず、根絶を達成した。植生調査ではモクマオウの増加が見られた。今後の兄島・弟島モニタリングは 3～5 年毎に実施。	○父島 ・ノヤギ生息状況（定点観察、船上・陸上カウント）（継続） ・オガサワラノスリ生息状況（船上・定点観察） ・植生調査（53 箇所ポイントコドラート、25 箇所定点写真観察）  ○兄島（3～5 年毎で継続。次回 H26 予定） ・植生調査（6 箇所コドラート）  ○弟島（3～5 年毎で継続。次回 H26 予定） ・固有植物調査（オガサワラグワ） ・外来植物調査（モクマオウ、ギンネム） ・植生調査（3 箇所コドラート）	①父島のノヤギ排除頭数（環境省、東京都、小笠原村） 銃器 437 頭 わな 51 頭 合計 488 頭 （H22 からの累計 1567 頭）  ②捕獲圧の高い地域（鳥山、西海岸、中山峠、赤旗山等）の草地では草丈の伸長や増加が見られた。	①父島のノヤギ排除作業を継続実施。  ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	『父島ノヤギ排除検討委員会』にて検討       『弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会』にて検討（ノヤギ根絶に伴い平成 23 年度に終了）
プラナリア	都 2	都レンジャーの配置	父島 母島 属島	継続して実施  竹芝のおがさわら丸乗船口に泥落とし消毒マットを設置（平成 24 年 2 月より）  父島のははじま丸乗船口に靴底洗浄施設を整備。（平成 23 年 12 月）	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施 平成 24 年度より 7 名体制に強化（父島 4 名、母島 3 名）	洗浄マットの内容物を分析	・内容は分析中 ・父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施	都レンジャー 父島 4 名 母島 3 名
アカギ・モクマオウ・リュウキュウマツ	都 3	都用地外来植物対策事業	父島 弟島	国有林野の対策状況と連携し、隣接する都用地においてモクマオウ等を駆除する。	・父島の都用地における駆除計画を策定。	① 父島の都用地で、モクマオウ等の外来植物駆除を実施。  ② 弟島の都用地における駆除計画を策定	・植生調査	夜明山周辺の国有林隣接地で駆除を実施。 モクマオウ 2 本 リュウキュウマツ 12 本 ギンネム 1 本 シマグワ 1 本 キバンジロウ 51 本	①父島の都用地で外来植物駆除を継続して実施  ②弟島の都用地で外来植物駆除に着手	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討
ギンネム、ヤダケ、その他外来植物	都 4	聶島列島植生回復事業	聶島 媒島	①継続してモニタリング調査を実施（聶島、媒島）  ②ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続（聶島、媒島）  ③ 土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を行う（媒島）。	①継続して、外来種生育状況、海鳥類、昆虫類、陸産貝類のモニタリング調査を実施。ギンネムは拡大傾向。  ②ギンネムの駆除作業を継続して実施（聶島 3.1ha、媒島 7.7ha）  ③ダム 1 基設置、芝筋等緑化移植工約 150 m <sup>2</sup> 試行。	①継続してモニタリング調査を実施（聶島、媒島）  ②ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続して実施（聶島、媒島）  ③継続して、土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を行う（媒島）	・海鳥生息状況（嫁島、媒島、聶島） ・昆虫類生息状況（聶島、媒島：インベントリー、ライト・マレーズトラップ） ・陸産貝類生息状況（聶島、媒島）（隔年） ・残存林の拡大縮小状況（聶島、媒島）（毎年～数年間隔） ・植物群落（聶島 1 箇所、媒島 5 箇所、嫁島 1 箇所）（数年間隔） ・海底環境（媒島袋港）（隔年） ・外来植物分布（嫁島ヤダケ、媒島タケ・ササ類）（数年間隔） ・ギンネム分布状況、駆除箇所植生回復状況 ・ギンネム駆除陸産貝類影響モニタリング（聶島/1 地点/50m トランゼクト、媒島/3 地点/50m トランゼクト）	①モニタリングにおいて、大きな変化はなし。ギンネムは分布拡散を確認。  ②ギンネムの駆除作業を継続して実施（聶島 1.0ha、媒島 5.1ha）  ③ ・ダム 1 基改修 ・イネ科緑化移植工 4800 m <sup>2</sup> ・侵食防止シート工 2500 m <sup>2</sup>	①モニタリング調査を継続して実施（聶島、媒島）  ②ギンネム・タケ・ササ類の駆除を継続して実施（聶島、媒島）  ③継続して、土壌流出が著しく、植生基盤への影響が大きいエリアにおいて、土留めダムや侵食防止シートの設置、緑化移植工等を行う（媒島）	「小笠原国立公園聶島列島植生回復調査検討委員会」において検討    「小笠原国立公園媒島・聶島植生復元測量調査・設計検討委員会」において検討

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度 (見込み)			平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
	都 5	父島列島外来植物対策事業	父島 兄島 孫島	ノヤギの根絶・減少に伴い拡散の恐れがあるギンネムについて、父島の中山峠、巽崎、鳥山、兄島滝之浦にて緊急駆除。	・ギンネム駆除 父島：中山峠、巽崎、鳥山（母樹 2200 本） 兄島：滝之浦（母樹 4650 本、稚樹 152000 本）	ノヤギの根絶・減少に伴い拡散の恐れがある外来植物を駆除。 ① ギンネム：母樹の駆除実施。実生・稚樹の確認及び駆除 ② モクマオウ等：兄島北部において駆除計画を策定	・植生調査 ・駆除・再生モニタリング ・薬剤成分モニタリング	① ギンネム駆除 父島：中山峠、巽崎、鳥山（母樹 840 本、稚樹 11000 本） 兄島：滝之浦、マヒノ子周辺、二俣岬（母樹 3500 本、稚樹 55000 本）	①ギンネム駆除 万作浜周辺継続して実施 ②モクマオウ等 兄島北部（二俣岬周辺）で外来植物駆除に着手	「父島列島外来植物対策検討委員会」にて検討
	都 6	南島植生回復事業	南島	○継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除（シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本、ネズミ排除）	①シンクリノイガ等の外来草本 43 回実施し、4400kg 駆除(90ℓゴミ袋で 475 袋) ②生育する外来木本の全てを駆除。(モクマオウ 2 本、ガジュマル 2 本、シマグワ 1 本)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	・固有ハナバチ類の訪花状況 ・外来植物分布状況	①シンクリノイガ等の外来草本 53 回実施し、5800kg 駆除(90ℓゴミ袋で 1100 袋) ②生育する外来木本の全てを駆除。(モクマオウ 2 本、ガジュマル 1 本)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	地元 NPO においても関連機関（小笠原総合事務所国有林課、小笠原村）の協力のもと外来種駆除ボランティアを実施している。
		南島植生回復調査	南島	①事前調査(ネズミ生息状況、殺鼠剤喫食性、生態系モニタリング) ②駆除計画決定、駆除実施	・1 月にダイファシノン系殺鼠剤散布(計 3 回)を実施	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング(鳥類、甲殻類、植生景観等)を継続して実施。	・外来ネズミ生息状況(継続) ・生態系モニタリング(鳥類、甲殻類、植生景観)(年 1 回、継続) ・薬剤成分モニタリング	・ネズミ類の生息確認なし	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング(鳥類、甲殻類、植生景観等)を継続して実施。	「南島植生回復調査検討委員会」にて検討
	都 7	南島自然環境モニタリング	南島	利用と自然環境に関するモニタリングを継続して実施	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等	利用と自然環境に関するモニタリングを継続して実施	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等	・大きな変化は見られない	利用と自然環境に関するモニタリングを継続して実施	「南島自然環境モニタリング調査検討委員会」にて検討
アカガシラカラスバト	都 8	アカガシラカラスバト保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施	29 羽飼育(上野 24、多摩 5)。産卵数 46、6 羽孵化、4 羽育成。	継続して保護増殖を実施		傷病個体 1 羽をファウンダーに追加。 35 羽飼育(上野 27、多摩 8)。産卵 43、孵化 9、育成 6	継続して保護増殖を実施	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都 9	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	東北地方太平洋沖地震の余震による津波等の影響を考慮し、今年度の調査は中止。	・東北地方太平洋沖地震の余震による津波等の影響を考慮し、今年度の調査は中止。	北硫黄島における生息調査	アカガシラカラスバト オガサワラオオコウモリ	父島で放鳥したアカガシラカラスバトを北硫黄島で確認	北硫黄島における生息調査を継続	〃
オガサワラシジミ	都 10	オガサワラシジミ保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	5 月♀ 1 捕獲、採卵後放蝶 採卵数 82、孵化数 67、羽化数 33 交尾は成功せず 9 月 7 日の個体の死亡をもって飼育終了。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。		10 月♀ 1 捕獲、採卵後放蝶 採卵数 87、孵化数 70、羽化数 51 2 月 21 日最後のみ個体死亡。交尾成功せず。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
	都 11	オガサワラシジミ保全事業	母島	都府地において、外来種を除去や食餌木の植栽等により、生育環境の改善を実施	・対象地における外来植物駆除と整備を実施。周辺に食餌木の存在を確認。	継続して実施 対象地周辺の食餌木から種子採取、穂木採取	対象地周辺の食餌木の開花・結実状況	調査及び対象地整備を継続して実施	継続して実施	〃
オガサワラオオコウモリ	都 12	オガサワラオオコウモリ保全事業	父島	オガサワラオオコウモリの行動圏及び都府地の利用状況について調査	・都府地の一部で食痕を確認 ・兄島への飛来行動を確認	継続して実施 利用が見られる都府地において外来植物の駆除を実施	・都府地での飛来・利用状況 ・GPS による行動圏調査	・調査実施中	継続して実施	
アホウドリ類	都 13	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	繁殖状況調査を継続して実施	クロアシアホウドリ繁殖数 聳島列島 855 羽 父島列島 6 羽。 母島列島 6 羽 コアホウドリ繁殖数 聳島列島 12 羽	・繁殖状況調査を継続して実施 ・聳島列島におけるアホウドリの飛来・繁殖モニタリングに着手	アホウドリ類(クロアシアホウドリ、コアホウドリ、アホウドリ) 聳島列島：全域 父島列島：孫島 母島列島：姉島属島・妹島属島	①アホウドリ飛来 ・飼育個体 5 羽、自然個体 3 羽 ・無性卵の産卵確認 ②クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 ③コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施	地元 NPO(小笠原自然文化研究所)と連携して実施。

■実施機関：小笠原村

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果	
シンクリ ノイガ	村 1	外来種啓発事業	南島	実施なし		南島で 1 回実施		参加人数 30 名	南島及び兄島での実施予定 兄島での実施に関しては、調整が必要
オガサワ オオコウ モリ	村 2	農作物被害対策事業	父島	台風等の強風にも耐える規格とするため、防除施設モデルの仕様見直し及び実証実験	仕様を見直した防除施設モデルを農地に設置し、食害防除効果及び耐久性について確認を行った。	硬質樹脂ネットを使用した食害防除施設の設置を希望する者に対し、施設設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。		資材配布は、施設 1 件、器具 2 件実施。(今年度他に施設 2 件実施予定。本種被害による設置問合せ 9 件。)	硬質樹脂ネットを使用した食害防除施設の設置を希望する者に対し、施設設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。

■実施機関：民間・共同・その他

事業項目				平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果	
ネコ	民 1 環 2	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	父島 ・母島 ・弟島	母島北進線において、アカガシラカラスバト保護のため、ノネコの緊急捕獲を行う。	26 頭を捕獲し、父島で一時飼養後に、東京都獣医師会へ搬送した。	母島北進線において、アカガシラカラスバト保護のため、ノネコの緊急捕獲を行う。		28 捕獲し、父島で一時飼養後に、東京都獣医師会へ搬送した(3/7 現在)。	継続して実施 地元 NPO〈小笠原自然文化研究所〉が実施。〈小笠原のネコに関する連絡会議〉において共同実施、〈東京都獣医師会〉が協力
ネコ	民 2	適正飼養推進事業	父島 ・母島	22 年度と同規模で実施。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 新規転入者への周知徹底を図る。	派遣動物診療団により、父島・母島で計 144 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 10 頭にマイクロチップを挿入し、挿入率は 71% を達成した。 派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。 また、獣医師との意見交換会、保育園等での幼児向け講演を実施した。	23 年度と同規模で実施。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 新規転入者への周知徹底を図る。	派遣動物診療団により、父島・母島で計 132 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 6 頭にマイクロチップを挿入し、挿入率は 67% を達成した。 派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。 また、獣医師との意見交換会、小中学校等での次世代教育を実施した。	24 年度と同規模で実施。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 新規転入者への周知徹底を図る。	事業費については村負担。〈小笠原のネコに関する連絡会議〉において協力、〈東京都獣医師会〉が協力
アホウドリ類	民 3	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	繁殖状況調査の実施	父島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認。 聳島列島でクロアシアホウドリ 852 羽、コアホウドリ 12 羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認	継続して実施 聳島列島でアホウドリの調査に着手	アホウドリ類(クロアシアホウドリ、コアホウドリ) 聳島列島：全域 父島列島：孫島 母島列島：姉島属島・妹島属島	①クロアシアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 933 羽、 ・父島列島 7 羽 ・母島列島 14 羽 ②コアホウドリ繁殖数 ・聳島列島 11 羽	継続して実施 地元 NPO〈小笠原自然文化研究所〉と連携して実施。

【実施機関】

No.1 小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)、小笠原自然解説指導員連絡会、(社)東京都獣医師会が実施。

協力:島内獣医師、ボランティア(捕獲・飼育)、小笠原海運(株)、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局

No.2 (社)東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)が実施。 協力:NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は(財)自然保護助成基金助成事業による。

No.3 東京都小笠原支庁、NPO 小笠原自然文化研究所